

平成23年度

事業計画書
予算

財団法人 国立京都国際会館

平成23年度事業計画書

1. 平成22年度事業概要と収支見込み

(1) 総論

平成22年度において、特筆すべき点は以下のとおりです。

先ず1月、川勝堅二前理事長の後任として稲盛和夫京セラ名誉会長が第四代理事長に就任しました。また、約半年に亘る館内の議論を踏まえて、4月、国立京都国際会館の理念、運営方針および職員心得を制定し公表しました。

次に、本年は大型国際会議が例年に比し数多く開催され、これが大幅な収入増につながる見通しです。

機構面においては、当会館の活動を外部にアピールするため、本年4月より広報企画室を設け外部の専門家を配置しました。9月にはオピニオンリーダーを招いての自主企画シンポジウムを開催しました。

また、職員の質的向上を図るため、海外のセミナー参加や諸外国の国際会議場の視察を積極的に実施しました。他方、外国人研修生を昨年に引き続き1名受け入れました。当会館としては、国のMICE（Meeting, Incentive, Convention, Event/Exhibition）戦略と軌を一にし、職員のレベルアップを図り、さらなる事業の発展のため尽力しています。

次に、会館の施設については、地下鉄出口からイベントホールに至る間の屋根付き歩廊の整備や正面玄関の車寄せの補修などを行い、参加者の利便性の向上を図りました。また、正面玄関内側に京都府・京都市等の協力を得て、「環境の殿堂」が設置されました。

他方、経営面において、顧客への利便を図るため、会議用備品、電気機器の使用料を改定し、茶室使用料を大幅に引き下げました。また、預金の一部を国債等の購入に回し、財務基盤の安定化を図りました。

(2) 会議の概要

平成22年度の当会館での国際会議の開催件数は本年末までに51件、同じく国内会議等の開催件数は193件で、合計244件が見込まれています。

平成22年度の主な国際会議および国内会議等は以下のとおりです。

(イ) 主な国際会議（参加人数1,000名以上）

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
社団法人日本青年会議所2010年度京都会議	1. 21～1. 24	12, 100
KYOTO地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2. 13～2. 14	1, 000
第74回日本循環器学会総会・学術集会	3. 4～3. 7	17, 877
第1回アジア慢性期医療学会	3. 13～3. 14	1, 500

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
第14回国際内分泌学会議	3. 26～3. 30	3, 380
第84回日本感染症学会総会・学術講演会	4. 5～4. 6	2, 100
第50回日本呼吸器学会学術講演会	4. 23～4. 25	5, 743
第20回国際心臓研究学会世界大会	5. 13～5. 16	1, 213
国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン第24回リジョン大会及び2009年度分科会	5. 18～5. 19	2, 500
第1回世界加速器会議	5. 23～5. 28	1, 300
社団法人日本超音波医学会 第83回学術集会	5. 29～5. 31	3, 300
第10回日本抗加齢医学会総会	6. 11～6. 13	2, 500
日本臨床歯周病学会 第28回年次大会	6. 26～6. 27	1, 500
日本ペインクリニック学会 第44回大会	7. 1～7. 3	3, 118
2010年合成金属の科学と技術に関する国際会議	7. 4～7. 9	1, 200
第10回国際中皮腫会議学術集会	8. 31～9. 3	1, 000
世界分子イメージング会議2010	9. 8～9. 11	1, 900
Scoliosis Research Society 45th Annual Meeting and Course	9. 20～9. 24	1, 000
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (STSフォーラム) 第7回年次総会	10. 3～10. 5	1, 000
第25回日本整形外科学会基礎学術集会	10. 14～10. 15	2, 000
第24回日本Endourology・ESWL学会総会	10. 21～10. 23	1, 456
第48回日本癌治療学会学術集会	10. 28～10. 30	8, 200
第17回APEC財務大臣会合	11. 4～11. 6	1, 100
第26回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11. 10～11. 12	5, 100
世界健康フォーラム2010・京都「世界の健康は食文化から」	11. 25～11. 25	2, 005
第31回日本臨床病理学会年会および第17回臨床薬理学講習会	12. 1～12. 4	2, 200
ATAC 2010	12. 10～12. 12	1, 000

(ロ) 主な国内会議等（参加人数1,000名以上および自主企画等）

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
第13回日本病態栄養学会年次学術集会	1. 9～1. 10	3, 600
第31回日本病院薬剤師会近畿学術大会	1. 30～1. 31	3, 300
第48回関西財界セミナー	2. 4～2. 5	450
第26回京都府消防大会	2. 7	2, 000
ネオロマンス・フェスタ - 遙か十年祭 - in 京都	2. 5～2. 7	8, 000
第40回中小企業問題全国研究集会	2. 11～2. 12	1, 500
第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2. 12～2. 13	1, 200
茶道裏千家淡交会青年部第15回全国大会	3. 20～3. 21	3, 000
京都精華大学2010年度入学式	4. 1	2, 300
国際ロータリー第2650地区2009～2010年度地区大会	4. 4	3, 572
春の音楽会（自主企画）	4. 11	600
第49回春の宝松庵茶会（自主企画）	4. 29	600
第22回日本アレルギー学会春季臨床学会	5. 8～5. 9	3, 300
科学・技術フェスタ in 京都 平成22年度産学官連携推進会議	6. 5	5, 000
平成22年度京都府PTA指導者中央研修会	6. 11～6. 13	1, 500
平成22年度近畿老人福祉施設研究協議会京都会議	7. 22	1, 500
日韓 乾杯の夕べ（自主企画）	7. 25～7. 26	3, 400
平成22年度 子どもを共に育む未来づくり教育フォーラムin京都	7. 28	2, 500
平井堅 コンサート	8. 2	2, 300
2010年度 全国公文進度上位者のつどい in 京都	8. 29	3, 000
船橋洋一氏他シンポジウム「東アジアにおける民族の共生」 （自主企画）	9. 7	500

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
第24回日本手術看護学会年次大会	9. 17～9. 18	1, 800
フォーラム挑戦する私学 - 期待されるこれからの私学教育 -	9. 19	2, 000
日本女性会議2010きょうと	10. 2	3, 000
第50回全国国保地域医療学会	10. 8～10. 9	1, 500
平成22年度京都府戦没者追悼式	10. 25	2, 000
古典の日推進フォーラム2010	11. 1	1, 500
第50回秋の宝松庵茶会（自主企画）	11. 23	700
キャリア フォーラム 京都会場	11. 27	5, 000
第38回内科学の展望	12. 5	1, 500
第13回京都市PTAフェスティバル	12. 11	20, 000

(3) 平成22年度の収支見込み

平成22年度の現時点における収支見込みについては、開催期間の長い大型会議の増加に伴い、収入の部では平成21年度（14億19百万円）に比べ、大幅な増収が見込まれます。

一方、支出の部では、人件費や委託費は前年並みですが、会議運営の必要経費が大きく増大する見込みです。

以上のような状況のもと、公益法人として、均衡のとれた収支となるよう努めてまいる所存です。

2. 平成23年度事業計画

(1) 総論

平成23年度における収支見込みは下記(3)の通りですが、当会館としては、平成22年度の取り組みを継続しつつ、国のMICE戦略に沿って外国からの会議誘致活動を強化し、また自主企画事業を通じて当会館の存在感をさらに大きなものにしていく考えです。

なお、新公益法人への移行について、当会館は、昭和41年、特別立法による管理委託先として、国際会議開催のための公益財団法人として設立されたことに鑑み、新公益法人制度においても、公益財団法人としての認定を受けるとの方針のもと、平成22年7月に内閣府に移行認定申請を行いました。早期の認定につき努力してまいりたいと思います。

(2) 会議の概要

平成23年度の現時点における当会館での国際会議の開催件数の見通しは50件、同じく国内会議等の開催件数の見通しは210件で、合計260件となっています。これは前年度に比べ数の上では多くなっていますが、大型会議は大幅に減少しています。

平成23年度に開催が予定されている主な国際会議および国内会議等は以下のとおりです。

(イ) 主な国際会議

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
公益社団法人日本青年会議所2011年度京都会議	1. 20～1. 23	12, 100
KYOTO地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2. 12～2. 13	1, 000
第7回日本消化管学会総会学術集会	2. 18～2. 19	2, 000
15th ILO Asia-Pacific Regional Meeting	4. 10～4. 13	700
環太平洋法曹協会2011年第21回年次 京都／大阪 大会	4. 21～4. 24	1, 400
第112回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	5. 19～5. 21	4, 000
2011国際分析科学会議	5. 22～5. 26	1, 000
第11回日本抗加齢医学会総会	5. 27～5. 29	2, 000
第32回日本炎症・再生医学会	6. 2～6. 3	1, 000
2011年国際電気通信会議	6. 5～6. 9	1, 200
第16回国際RNAミーティング	6. 14～6. 18	1, 000
日本家族看護学会第18回学術集会	6. 25～6. 26	3, 000
第10回国際家族看護学会	6. 25～6. 27	1, 000
第23回国際血栓止血学会	7. 23～7. 28	6, 000
第15回国際分子植物微生物相互作用学会	8. 2～8. 6	1, 000
第2回プロセス化学国際シンポジウム	8. 11～8. 12	1, 000
第9回Pangborn感覚科学シンポジウム	9. 4～9. 9	850
第84回日本生化学大会	9. 21～9. 24	6, 000

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第8回年次総会	10. 2～10. 4	800
日本睡眠学会第36回定期学術集会／World Sleep 2011	10. 15～10. 20	2, 500
第27回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11. 10～11. 12	3, 350
第3回世界信頼性保証会議	11. 13～11. 16	1, 100
第29回国際泌尿器内視鏡外科学会	11. 30～12. 3	3, 000

（ロ）主な国内会議等

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
第7回全国小学校英語活動実践研究大会	1. 15	2, 000
第34回日本眼科手術学会総会	1. 28～1. 30	3, 600
第49回関西財界セミナー	2. 9～2. 10	450
寺島実郎氏講演会「世界の潮流と日本の進路」（自主企画）	2. 11	300
社団法人京都市観光協会 50周年記念式典	2. 14～2. 15	1, 000
日本臨床心理士会 定例職能研修会Ⅳ	2. 26～2. 27	2, 000
京都精華大学2011年度入学式	4. 1	2, 300
第51回春の宝松庵茶会（自主企画）	4. 3	500
ライオンズクラブ国際協会335-C地区第57回年次大会	4. 16	2, 000
春の音楽会（自主企画）	4. 17	600
国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区協議会・第一回合同地区委員会	5. 14	1, 400
第67回日本弱視斜視学会 第36回日本小児眼科学会	7. 1～7. 2	1, 500
スリーサム2011京都	7. 8～7. 10	2, 000
第44回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	7. 14～7. 15	1, 200
全国氏子青年協議会第49回定期大会京都大会	7. 16	1, 000

会 議 名	開 催 期 間	参加人数
乾杯の夕べ（自主企画）	7月下旬	3,400
第52回日本母性衛生学会学術集会	9.29～9.30	1,500
第26回国民文化祭開会式・オープニング	10.29	5,000
第52回秋の宝松庵茶会（自主企画）	11月下旬	500

(3) 平成23年度収支見込みと営業努力

平成23年度の収支見通しについては、前述のとおり収入の部では減収が予想されます。これは、平成23年には東京で4年に1度の日本医学会総会が開催されるため、1年を通じて主な医学会の開催が首都圏に集中するためです。また、景気の回復が望めないため、企業の式典、表彰式、イベント等が引き続き減少傾向にあることも原因の一つと見られます。

一方、支出の部では、運営に要する変動経費は、収入の減少に伴いある程度減少することが予測されます。なお人件費や委託費は概ね前年並みになる見通しです。

以上のような状況ではありますが、ホームページのリニューアルにより英語ページを充実させ、海外から直接問い合わせを頂く件数を増やし、また国際会議データの分析によるマーケティングや大学、学会事務局からの情報収集、トラベルエージェンツや会議運営関連業者への働きかけ等従来以上に誘致活動を強めてまいる所存です。また自主企画シンポジウムの開催や宝松庵茶室の利用などを通じて、当会館に対する市民の関心を高める努力を強化いたします。

また、限られた職員で質の高いサービスを提供するため、人材育成に従来以上に力を注いでいく所存です。

3. 施設の拡充・整備

当会館は、10年以上も前より、多くの顧客の要望に応えるべく、政府に対し約5,000名収容可能な多目的ホールの増設を陳情してきました。例えば、去る11月中旬開催された京都賞受賞者による記念講演会には3,000名を超える申し込みがあったため、メインホールとアネックスホールを映像でつないで全員収容せざるを得ませんでした。また大型医学会議に必要な展示場を確保するため、駐車場に特設大型テントを臨時に設置して急場をしのぎました。

幸い、政府は成長戦略の一環としてMICE戦略を重視しており、その延長線上として当会館の整備拡充に取り組んでくれています。当会館としては早期に多目的ホールの建設が実現されるよう京都府、京都市はじめ関係者の協力を得て政府への働きかけを強めてまいる所存です。

（参考）最近（平成21年）の世界および国内における国際会議の開催状況

(1) 世界での国際会議開催状況

国際団体連合（UIA）が取りまとめた国際コンベンション統計によると、2009年に世界で開

催された国際会議の件数は11,503件で、前年と比較すると3.8%増加しました。

これを地域別に見ると、ヨーロッパが前年の5,846件から6,194件と増加し、依然として1位を維持しています。これにアジア（2,402件→2,594件）、南北アメリカ（1,976件→1,862件）、アフリカ（521件→579件）、オセアニア（340件→274件）が続いています。

また、国別で見ると、アメリカが1,079件から1,085件となり依然として1位を維持しています。次いで637件から689件に増加したシンガポールが前年の3位から2位に順位を上げています。さらに3位には632件のフランスが、4位には555件のドイツが入っており、日本は538件で5位となっています。続いて6位から10位まではヨーロッパの国々（ベルギー、オランダ、オーストラリア、イタリア）が占めており、その後11位に韓国、以下イギリス、スイス、スウェーデン、カナダ、オーストラリアと続き17位が中国となっています。

（2）日本での国際会議開催状況

国際観光振興機構が取りまとめた国際会議統計（上記のUIAとは選定基準が異なる）によれば、日本で開催された平成21年の国際会議の件数は2,122件となり平成20年に比べ28件とわずかな増加となりました。

これを都市別にみると、東京23区（497件）が1位を維持し、ついで福岡市（206件）が2位、3位に横浜市（179件）、京都市（164件）は4位となっています。これに名古屋市（124件）、大阪市（94件）、札幌市（82件）、神戸市（76件）と続いています。

次に主要会場別で見ますと、パシフィコ横浜がトップで91件、2位は71件で東京大学、3位は九州大学で62件、4位は京都大学と名古屋大学の51件、6位がつくば国際会議場で47件、当会館は44件で7位となっています。これに北海道大学41件、大阪大学および国連大学の39件と続いています。

他方、参加者数で見ますと、当会館は外国人参加者数では1位、参加者総数でも2位の位置を占めており、会議の内容においては優位にあると言えます。

＊ 資料1，2 参照

注：JNTO 国際会議統計基準

以下の①～④をすべて満たす会議を「国際会議」と定義します。

- ① 主催者：国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は、国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため民間企業以外は全て）。
- ② 参加者総数：50名以上。
- ③ 参加国数：日本を含む3カ国以上。
- ④ 開催日数：1日以上。

資料1

都市別国際会議開催件数 10 年間の推移

上段	新基準
下段	旧基準

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
東京（23区）	308	371	408	353	428	357	460	440	480	497
	705	759	793	715	733	742	744	-	-	-
福岡市	104	75	77	77	76	97	126	151	172	206
	163	147	150	160	178	180	274	-	-	-
横浜市	28	15	70	41	82	105	103	157	184	179
	96	105	130	148	156	159	162	-	-	-
京都市	108	111	145	149	170	137	154	183	171	164
	190	192	209	222	224	224	278	-	-	-
名古屋市	84	62	86	83	89	108	109	109	130	124
	200	194	167	193	193	236	194	-	-	-
大阪市	90	83	82	80	94	89	111	76	77	94
	224	230	192	148	254	249	237	-	-	-
札幌市	46	46	42	46	65	54	48	44	77	82
	107	96	71	87	92	99	127	-	-	-
神戸市	69	82	79	84	44	58	76	89	94	76
	195	207	205	168	172	177	183	-	-	-
つくば地区 （注1）	67	76	55	72	56	60	64	82	80	74
	88	88	80	90	78	88	94	-	-	-
千里地区 （注2）	26	25	32	39	58	35	49	32	53	71
	81	113	119	62	130	127	146	-	-	-
千葉市	26	19	16	34	59	38	39	42	67	63
	39	26	20	40	76	66	56	-	-	-
仙台市	54	46	41	37	43	42	45	51	63	60
	63	56	53	45	54	54	64	-	-	-
北九州市	45	31	18	28	30	19	28	43	47	50
	72	69	43	34	37	24	36	-	-	-
金沢市	9	10	11	12	13	10	10	20	16	27
	11	14	19	15	16	15	17	-	-	-
淡路市	27	24	24	35	39	34	21	35	26	25
	37	36	39	49	51	42	35	-	-	-

（注1） つくば地区とは、つくば市、土浦市を指す。

（注2） 千里地区とは、豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を指す。

（資料提供：国際観光振興機構）

会場別国際会議開催件数及び参加者数（2009年）

順位	会 場 名	開催件数(件)	外国人参加者数(人)	国内参加者数(人)	参加者総数(人)
1	パシフィコ横浜	91	6,839	279,458	315,146
2	東京大学	71	2,308	11,106	13,414
3	九州大学	62	1,194	6,669	7,863
4	京都大学	51	1,751	10,646	12,397
4	名古屋大学	51	994	11,097	12,091
6	つくば国際会議場	47	3,375	9,321	12,696
7	国立京都国際会館	44	7,211	72,950	80,161
8	北海道大学	41	1,562	10,127	11,689
9	大阪大学	39	734	5,696	6,430
9	国連大学	39	910	7,713	8,623
11	大阪国際会議場	37	3,845	61,208	65,163
12	名古屋国際会議場	29	2,220	33,407	35,627
13	アクロス福岡	28	504	9,281	9,785
13	福岡国際会議場	28	740	61,014	61,754
15	淡路夢舞台国際会議場	25	455	2,792	3,247
15	三田共用会議所	25	890	1,514	2,404
17	幕張メッセ	24	810	17,904	18,714
18	千葉大学	22	302	5,663	5,965
18	京王プラザホテル	22	1,980	3,536	5,516
20	北九州国際会議場	21	2,056	20,515	22,571
21	東北大学	20	690	4,487	5,177
21	神戸国際会議場	20	3,559	26,832	30,391
23	神戸ポートピアホテル	18	3,223	21,541	24,764
24	JALリゾートシーホークホテル福岡	16	576	7,708	8,364
24	東京国際フォーラム	16	903	14,527	15,430
24	学術総合センター	16	1,321	2,722	4,043
27	仙台国際センター	15	708	7,050	7,758
27	関西大学	15	587	1,855	2,442
27	早稲田大学	15	776	3,042	3,818
27	国際文化会館	15	251	995	1,246
27	東京ビッグサイト	15	1,728	21,804	23,532
32	札幌コンベンションセンター	14	959	13,386	14,345
32	神戸大学	14	256	2,881	3,137
32	千里ライフサイエンスセンター	14	188	3,333	3,521
32	湘南国際村センター	14	771	831	1,602
36	朱鷺メッセ	13	739	5,065	5,804
36	東京工業大学	13	397	2,457	2,854
38	アジア開発銀行研究所	12	371	360	731
39	筑波大学	11	826	1,995	2,821
40	福岡アメリカン・センター	10	68	652	720
40	マリンメッセ福岡	10	341	44,104	44,445
40	経団連会館	10	125	1,781	1,906
40	芝蘭会館	10	328	2,174	2,502

（注） 本表では、複数会場を利用して開かれた同一会議は、会場をベースに集計してある。

（資料提供：国際観光振興機構）

平成23年度予算書

(1) 予定収支計算書

平成23年 1月 1日から平成23年12月31日まで (単位：千円)

1. 収入の部

科 目	金 額	摘 要
使 用 料	1,395,300	
使 用 料 収 入	1,300,000	国際会議 630,000、国内会議、670,000
飲食宿泊施設使用料収入	42,900	
駐 車 場 収 入	49,400	
売店使用料収入	3,000	
利 息 収 入	10,700	
基 本 財 産 利 子	7,900	基本財産
受 取 利 息	2,800	運用財産
地下鉄連絡 通路収入	7,600	広告料及び分担金
そ の 他 収 入	600	たばこ販売
自主企画収入	12,000	
収 入 額 合 計	1,426,200	

2. 支出の部

科 目	金 額	摘 要
人 件 費	393,400	
職 員 給 料	233,800	職員45名
期 末 手 当	72,200	
退 職 金	26,400	在職者引当額等
通 勤 手 当	7,600	
法 定 福 利 費	50,200	社会保険料
福 利 厚 生 費	3,000	職員厚生

科 目	金 額	摘 要
委 託 費	2 5 8, 1 0 0	
会 場 設 営 費	4 6, 8 0 0	会場備品設營業務
駐 車 場 費	2 4, 7 0 0	駐車場業務、駐車場出入口開閉装置
館 内 案 内 費	3 5, 3 0 0	受付、案内、電話交換業務
警 備 費	3 3, 7 0 0	
清 掃 費	5 4, 6 0 0	会場清掃、窓ガラス、カーペット
電 気 機 械 保 守 費	5 8, 0 0 0	電気設備
雑 給	5, 0 0 0	
運 営 費	5 8 0, 7 0 0	
電 力 使 用 料	3 8, 8 0 0	照明、動力
ガ ス 使 用 料	6 2, 0 0 0	コージェネ、冷暖房
水 道 使 用 料	5, 0 0 0	上水道、下水道
広 報 宣 伝 費	8, 0 0 0	専門誌等への広告
通 信 運 搬 費	8, 0 0 0	電話、郵便、デジタル通信
運 営 用 消 耗 品 費	2 3, 0 0 0	照明、音響関係消耗品、コピー等
会 場 運 営 諸 費	4 3 6, 7 0 0	会場仮設諸設備・装飾、機器レンタル
管 理 費	1 7 6, 0 0 0	
修 繕 保 守 費	4 0, 0 0 0	機器、備品等保守修理等
庭 園 保 守 費	3 0, 0 0 0	庭園・外周清掃、除草 樹木整枝、施肥等
交 際 接 待 費	4, 0 0 0	
旅 費	1 0, 0 0 0	国内、海外出張
事 務 印 刷 費	1 5, 0 0 0	パンフレット印刷、事務機器、新聞図書、乗用車
保 険 料	2, 0 0 0	火災保険、施設管理者賠償責任保険
会 議 行 事 費	2, 0 0 0	理事会、評議員会
諸 会 費 分 担 金	5, 5 0 0	京都コンベンションビュロー他
減 価 償 却 費	6 5, 0 0 0	購入物品、受贈物品分
諸 費	2, 5 0 0	
地下鉄連絡通路維持費	7, 5 0 0	電力料、昇降機保守料等
自主企画事業費	1 0, 5 0 0	
支 出 額 合 計	1, 4 2 6, 2 0 0	
差 引 収 支 差 額	0	

(2) 予定貸借対照表

平成23年12月31日現在

(単位：千円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流 動 資 産	
現金	9,300
預金	510,230
未収金	200,000
販売物用品	150
前払費用	1,000
仮払消費税	51,000
流動資産合計	771,680
2. 固 定 資 産	
有形固定資産(通常運用)	
建物付属設備	209,990
車両運搬具	4,820
工具器具備品	317,080
立木	1,000
茶室建物	74,240
茶室付属設備	4,400
茶室備品	3,020
(計)	614,550
減価償却累計額	△ 538,000
計	76,550
有形固定資産(第一次運用)	
工具器具備品	73,440
減価償却累計額	△ 61,000
計	12,440
有形固定資産(第二次運用)	
工具器具備品	21,610
減価償却累計額	△ 21,500
計	110
有形固定資産(第三次運用)	
工具器具備品	61,700
減価償却累計額	△ 61,000
計	700
有形固定資産(第四次運用)	
工具器具備品	112,400
減価償却累計額	△ 110,000
計	2,400
有形固定資産(随時運用)	
工具器具備品	556,220
減価償却累計額	△ 427,000
計	129,220
無形固定資産	
会議ソフトウェア	11,600
通信加入権	740
(計)	12,340
減価償却累計額	△ 11,600
計	740
投資等	
投資有価証券	1,319,000
計	1,319,000
固定資産合計	1,541,160
資産合計	2,312,840

科 目	金 額
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	
未払費用	93,000
前受金	77,000
一時預り金	35,000
職員預り金	10,000
仮受消費税	54,100
保証預り金	60,600
未払法人税等	0
流動負債合計	329,700
2. 固定負債	
退職給付引当金	222,670
特別修繕引当金	67,470
公益目的事業引当金	607,000
固定負債合計	897,140
負債合計	1,226,840
Ⅲ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
2. 一般正味財産	
基本財産	224,050
運用財産	206,000
剰余金	280,000
(うち当期剰余金)	(0)
一般正味財産合計	710,050
正味財産合計	1,086,000
負債及び正味財産合計	2,312,840